

## 文化・芸術

### 「球遊びをする子供たち」

1900年ごろ リトグラフ、紙  
58・5センチ×50・7センチ

### ピエール・オーギュスト・ルノワール

(1841～1919年)

19世紀後半のフランスではさまざまな画家が版画表現を試みた一方で、印象派の画家たちの多くはキャンバスに描いていました。印象派の画家として活躍したルノワールは晩年にさしかかる1890年～1900年代ごろ、しばしば版画を手掛け、生涯で60点近くの作品を制作しています。

戸外でボール遊びをする子供たちを描いた本作は、単色刷りも存在しますが、当館のリトグラフは10色の多色刷り、画面はやわらかな色彩で満たされています。手前の2人は転がるボールを取り合うようにかみ、白いドレスの女の子は熱中するあまり赤いドレスの女の子の背中をつかみます。画面奥には数人の子が軽やかに駆けだしていきます。現代生活の中の何気なく目にする幸福に満ちた瞬間を切り取って描いたルノワール。本作も子供たちの躍動感があふれ、おだやかな陽光に包まれた画面から笑い声が聞こえてくるようです。

本作は18日からの常設展で展示します。

(大倉)

### 〈名画の扉〉

大川美術館コレクションから

